

楓こころのホスピタル

(平成 23 年 4 月 25 日訪問)

平均在院日数 266.9 日(平成 23 年 3 月 31 日現在)

病院全体

建物が新しいこともあるかもしれないが、トイレも病棟全体も臭いなどはせず清潔だった。入院中の患者と話しをしても、のびのびとして明るい印象をうけた。病棟から外に出ている患者の表情ものびのびし、患者同士で助け合っている姿や仲のよさそうに話しをしている若者の姿もあった。空気の流れがのんびりしている。竹林の葉音のせいだけではない。

建物内禁煙だった。敷地内禁煙にすると患者が近隣で喫煙をすることになり、それは地域との関係でよくないと判断し、敷地内に喫煙コーナーを作っていた。**病院側の説明** 退院して地域で暮らすことを支える病院でありたいと考えている。以前は多かった大阪市からの入院は 6 名となり、最近では近隣からの入院が多い。近隣からの入院は退院もスムーズで、新規の入院は殆どが 1 年未満で退院している。認知症の患者も受け入れているが、入院時に家族や(入院前に入っていた)施設側と退院の目処を具体的に確認し、長期化しないようにしている。

金銭管理

約 3 分の 1 の患者が病院に預けている。前回の訪問時は半数が預けていた。管理費は 100 円/日で、生活保護の患者は無料。鍵付ロッカーは無料。多くの患者が手首に鍵を付けていた。

オムツ代等

オムツ代 1 日 1,575 円、1,050 円、840 円、525 円の 4 段階があった。衣服レンタル(洗濯代込)500 円/日、15,000 円/月。スウェット上下、前衿の病衣など数種あった。

デイルーム

飲物の自販機(コーヒー110 円、ジュース 100 円)とお菓子の自販機(プリッツ、ビスコ、トッポ、ポッキー、全品 150 円)、自由に読める新聞があった。

電話・意見箱

デイルームの一部に公衆電話や意見箱のコーナーがあった。電話も意見箱もそれぞれが壁で仕切られ、周りからは見えにくい。意見箱のそばに用紙とボールペンが置かれ、「人権擁護委員会へのご意見について」という表題の文書(委員会に意見が届き、検討される手順の説明)が貼ってあった。デイルームには「意見箱だより」という意見への回答が掲示されていた。「食

事メニューの字が小さい」との意見に対して、「大きな字にします」というような回答が書かれていた。ふりがながうたれ、丁寧な回答が書かれていた。携帯電話は詰所で預かり、病棟の外で使うことになっていた。

病室

4 人部屋が中心で、ベッド周りのカーテンは 2 床ごとで囲われていた。同じカーテンで囲まれた隣り合う 2 床は、床頭台とたんすで仕切られていた。個室(6,300 円/日)、2 人部屋(3,150 円/日)もあった。

前回訪問(平成 18 年 3 月)から改善されていたことなど

職員研修(病院の説明)

研修はやればやるだけ効果がある。慣習に流されないために定期的に繰り返していく必要があると実感している。院内教育委員会のメンバー等が外部の研修に参加し、内部に伝える研修も行っている。日本精神科看護技術協会の研修は 1 回に 3 名参加している、よい刺激になる。同協会には、平成 10 年から職員が少しずつ加入し始め、平成 14 年には 35 名程が加入した(現在も同程度)。

隔離室のモニターカメラ

詰所の外から見えない位置に移動していた。ただ、今の設置場所についても「病棟側から覗き込むと見える可能性がある」と看護師から意見が出たため、人権擁護委員会で話し合っただけで囲いを付けたそうだ。

入浴の回数

週 3 回に増えていた。何年も入院しているという患者から「そういえば数年前から入浴が週 3 回になった。うれしかった」との声があった。

薬について

患者によると「食後は席に、眠前は病室に持って来る」とのことだった。

日用品の値段

一覧表がデイルームに掲示されていた。左端の欄に 5 桁のナンバー(事務処理用?)がふられていた。入院中の患者にとってはあまり必要のない欄のように思えた。他の掲示物がカラーで大きな字にするなど工夫されている分、この掲示物は少し見にくいように感じた。

退院支援

訪問した日には退院促進事業の茶話会が行われていた。長期在院患者に対してはグループホーム等を活用して退院支援を行ってきたが、高齢になるほど退院先の確保が難しいとのことだった。

市内のあちこちにグループホーム等(31名分)や法に拠らない共同住宅(11名分)を開設している。1人暮らしに移行することに対しても積極的に支援しているようだ。

面会

病棟内では面会ができない。病棟内での面会を検討した時期もあったが、近隣からの入院が多く、知り合いに会うことを避けたい患者もいるため、しばらくはこのままでいく予定とのことだった。面会室は、前回の訪問時と同様、仕切り等はなく、2組が一緒に面会する。

2階病棟 開放 男女 精神療養 54床

高齢者が多く、1人当りのスペースが広く、空気の流れもゆったりしていた。ただ長期に入院している患者が多くなっている様子が気になった。病棟の扉に「8:30～17:00 開放しています」と案内書きがあった。

3階病棟 開放 男女 精神一般 48床

詰所カウンター之窗も、病棟と詰所の間にある扉も開いていた。職員はデイルームなどに多く出ている。デイルームでは書道や折り紙をする患者や職員で活気があった。テレビを見ている患者もいた。デイルームのテーブルにはその席に座る患者の名前が貼られていた。日用品の値段が2ヶ所に貼ってあった。様々な団体や相談窓口のパンフレットが置かれているなど情報が多かった。

いくつかの女性病室や廊下では患者同士が談話していた。挨拶をすると、「どこから来たの?」「何をしに来たの?」と聞かれたり、「(入院生活では)こうやってのんびり息を抜いている」「来週退院する。ゆっくりできた」という声があった。男性の病室では横になっている患者が多いようで静かだった。

放送で音楽が鳴り出すと、多くの患者が部屋から出てきて体操をしていた。その後も音楽が流れ、そのときには廊下をウォーキングする患者が数名いた。

カーテンを開けている患者、閉めている患者と様々だった。床頭台に水筒や水の入ったペットボトルが置かれているのをあちこちで見た。ベッド周りにカレンダーやタオルを置いたり、OTの作品などを飾っている患者が多かった。

洗濯コーナーの流しが、段ボールを広げたもので覆ってあった。

患者の声

「看護師も医師も丁寧。困ったことあれば聞ける」「主治医は診察室での診察以外にも病棟をまわってくる」「他院に入院したこともあるが、ここは職員の入れ替

わりは少ないように思う」「家族が来てくれたときに買物に行く」「必要なものは家族が持って来てくれる」「入院して10日程。何度か入院している。いつも3ヶ月程度で退院する。この病院は家から近く、慣れている。職員も丁寧でよい」「何十年も前に家族がこの病院(の前身の「真城病院」)に入院していた。そのときからはずいぶん変わったと思う」「自由に飲めるお茶を置いて欲しい」「飲み物は水を水筒やペットボトルに入れている。食事のときにはお茶が出るが、多めにもらったりはできない」「自販機のお茶や飲み物を買うしかない」

4階病棟 閉鎖 男女 精神一般 48床

シーツ交換の日で、職員が順番に部屋をまわっていた。シーツ交換中の部屋の患者は廊下に出て待っていた。交換のためにまわって来た職員は、その部屋の患者に対して外で待ってもらうように、丁寧にお願いをしていた。その後、デイルームで行われているコーラスのところに1～2名の職員がいた以外は、職員はあまり詰所から出ていなくて、テーブルの間で横たわっている患者がいたが、そのままだった。詰所と病棟の間の扉は施錠され、詰所の小窓も閉まっていた。詰所内では職員が記録等の作業をしている様子が見えた。

デイルームから離れた位置にあるトイレは、日中は施錠され、夜間のみ鍵を開けるようだった。デイルームのテーブルに名前は貼られてなかった。

隔離室(2室)は詰所と隣接しているため、点滴が必要な場合などに観察室として施錠しないで使うことが多く、隔離室として使用するときも、ずっと入室しているような患者はいないとのことだった。訪問時、日中は開放して使用されていた。

患者の声

「常食からシルバー食(介護食)に変わったが、説明がなかった。歯も丈夫なのに」「前はお風呂は週2回だったが、3回になった。まあゆっくり入れる」「OTで編み物をしている」「私は担当看護師と話し合って決めてOTに行っているが、行かない人もいる」「年配の方もぱらぱらと入ってくるが何ヶ月かしたら退院していく」「お金は自分で管理している。鍵はゴムで腕に止めている」「薬のことは診察のときに聞いている」「家族が面会にきたときに外出をして買物をしている」「売店がないのは不便」、PSWについては「入院したときに会った」「いることは知っている。退院のことは医師に相談している」との声があった。

OT(作業療法)室での患者の声

「病棟で飲み物が100円で、自分で買えるのが楽しみ」「意見箱に質問を入れたら、ちゃんと返事をくれる

のでほっとした」「整理ダンスに鍵付ケースが無料で付いているので、安心できる」「OT で作った押し花を俳句の紙につけられた、楽しかった」「部屋に1人ずつポータブルトイレがある。夜中、足元がふらつくので助かる。臭いもしない」「先生はよく話を聞いてくれる」

積極的な取組など

市内のあちこちに府営住宅やアパート等、既存の住居を活用してグループホーム等(31名分)や法に拠らない共同住宅(11名分)を開設している。グループホームから出て1人暮らしに移行することに対しても積極的に支援しているようだ。デイケア利用者は7割程で、週1回の利用、3回の利用など個人によって様々のようだった。デイケアを利用しない人は他の病院のデイケアや地域活動支援センター等に行っている。夕食は、同じ府営住宅やアパートの入居者6人程ずつが、共有スペースや広いダイニングに集まって食べている。世話人がそれぞれの場所(5ヶ所)で作っている。

検討していただきたい事項

声のかけやすい詰所

訪問時、3階病棟の詰所では小窓も病棟と間の扉も開いていた。4階病棟では小窓も扉の鍵も閉まっていた。病院側によると、「基本的には扉は施錠している。なるべく病棟に出るようにしている」とのことだった。ただ、それでも訪問時の4階病棟のように、詰所に職員が集中する時間帯もあるようなので、詰所内に職員がいるときは扉に施錠しないことや小窓を大きく開けておくなどして、詰所と患者がいる病棟内との風通しをよくする方法について検討をお願いしたい。

(病院:4階病棟は急性期の患者が多いという現状から扉の施錠を原則としています。ただ、患者との信頼関係をよりよりにし、開放感のある療養環境の中で治療を進めていくという観点から考えると、現状は改善を検討すべきことと思われます。今後は「詰所内に職員がいる時は詰所の扉は施錠しないこと、小窓は大きく開けておく」ということを原則とし、病棟職員に徹底していく予定です。

自由に飲めるお茶を置いて欲しい

病院から提供されるお茶は食事時にしか出ないため、500mlのペットボトル等に水道の水を入れて病室に置いている患者がいた。患者から「(食事時以外も)自由に飲めるお茶を置いて欲しい」との声があった。また、洗面所はトイレとつながっており、その水をくんで飲むことに抵抗があるという患者からは「自販機のお茶や飲み物を買うしかない」との声もあった。

(病院:多飲傾向にある患者も少なくないので、治療

的観点から、自由に飲めるお茶は食事及び食事後1時間ほどしか出ません。自由に飲めるお茶は自販機(お金がかかります)にありますし、自力で水分補給が困難な患者に対しては職員が援助しています。自販機のお茶は100円、もっと安いお茶を飲みたいという方は、外出して近くのスーパーで購入できます。今後も検討していきます。)

おたずね

- 3階病棟のデイルームのテーブルにはその席に座る患者の名前のシールが貼られていました。何故貼らないといけないのでしょうか？(病院:以前患者数名から「テーブルの席で戸惑うことがあるので名前を表示してほしい」という要望があり、実施しています。ただし、名前の表示はやめてほしいと言う要望があれば表示しないなど個別に対応はしています。)
- 研修として看護師が他の病院を見学するというようなことは行われているのでしょうか？(病院:年に1度の大精協の相互訪問(ピアレビュー)の際、あるいは病棟新築などで案内・招待などがあつた場合に見学に行く程度で、計画的に他病院の見学は行っていません。)

精神保健福祉資料より(平成22.6.30時点)
149名の入院者のうち統合失調症群が83名(56%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害35名(23%)、気分障害が24名(16%)。入院形態は任意入院107名(72%)、医療保護入院42名(28%)。在院期間は1年未満が60名(40%)、1年以上5年未満が40名(27%)、5年以上10年未満が24名(16%)、10年以上20年未満が11名(7%)、20年以上が14名(9%)。